

特集

彦根城

世界遺産登録へ大きく前進！

彦根城世界遺産登録推進室
☎ 26-5833 FAX 26-5899

彦根城が世界遺産の暫定リストに記載されてから約30年が経過しました。市民の皆さんの中にも、「本当に彦根城が世界遺産に登録される日が来るのだろうか」と思っている人もいないのでしょうか。

彦根城は今年10月にイコモスから「世界遺産登録の可能性がある」という事前評価を受けました。

事前評価とは、世界遺産の推薦書を提出する前に、価値などについてユネスコの諮問機関であるイコモス

から助言を受ける制度です。専門機関からの助言をもとにユネスコへの推薦書を作成できるので、推薦書の精度が高まり、登録に向けて着実なステップを踏むことができます。

今回の特集では、彦根城が評価された「江戸時代の政治の仕組みがわかる」について具体的にお伝えします。

ユネスコが彦根城を評価した3つのポイント

1

江戸時代の政治の仕組み
= 「大名統治システム」がスゴイ

2

江戸時代の政治の仕組みが
ワカル

3

地元が城を大切にして
アイシテル



詳しくは
こちら

まずはじめに！

江戸時代にタイムスリップできる場所をご紹介します！

あちこちに残る重臣屋敷

重臣たちは、中堀の内側に表御殿（政治をする場所）を取り囲むように住まわされました。当時30軒ほどあった重臣屋敷は、遺構として良く残っていることが調査でもわかっていて、建物も現在3軒現存しています。表御殿との位置関係から重臣が政治の中心にいたことがわかります。

旧西郷屋敷長屋門（旧裁判所横）



旧脇家屋敷（彦根東高校横）



旧木俣屋敷（開国記念館横）



こんな近くで暮らしていたんだ！

大名と重臣の思いをつなぐ場所

玄宮園については、自然を楽しむ庭園としての役割が広く知られていますが、下のイラストのように園内には、大名と重臣と一緒に武術や文化的な活動（流鏑馬やお茶、蹴鞠など）を楽しみ、価値観を共有することで組織の結束力を高める場所として活用されていた痕跡が残っています。



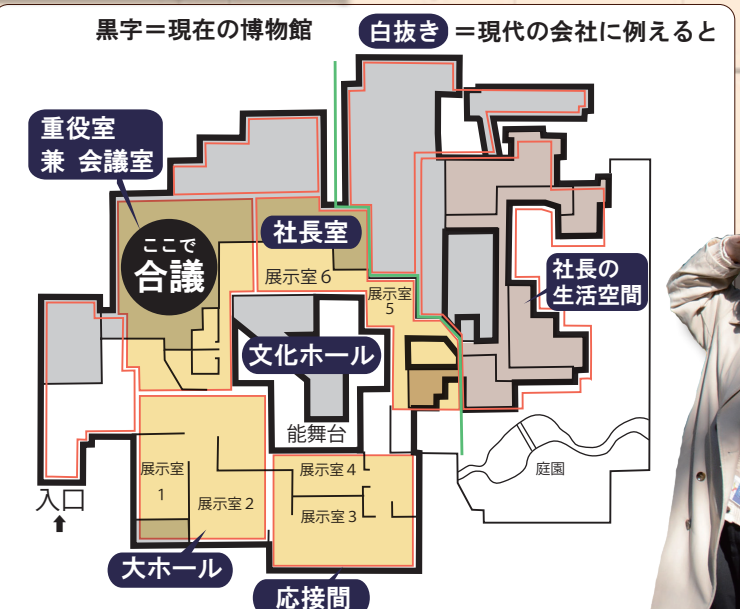
入ってすぐのまっすぐ長い道では、馬のかけ比べがされていたんです！



彦根城博物館＝表御殿＝かつての役所



ここは大名（城主）が普段暮らすための場所だけでなく、重臣たちと共に政治について話し合う場で、特に、復元された生活空間と当時の能舞台を見ると、江戸時代に思いを馳せることができます。



天守じゃなくて、ここが大名の生活の中心になっていたんだ！

